

○議長（森 弘秋君） 7番 前原英石君。

○7番（前原英石君） 前原でございます。よろしくお願いをいたします。

金森村長におかれましては、今定例会の提案理由説明の中で、4期16年間務めてこられました村長職を、今期をもって引退すると説明されておりました。

私自身、その16年間を二元代表制の一端の立場として金森村長とともに舟橋村の発展のために議論を重ねてきましたが、今回引退されるということで大変残念に思っております。

説明の中でこれまで取り組んでこられた施策についての話をしておられましたが、私が一番強く感じているのは、財政を健全化させられたことではないかと思っております。住民サービスを低下させることなく、持続可能な舟橋村づくりのために日々奔走され、16年前は基金も少なく、舟橋村の行く先に大きな不安を感じておりましたが、今では周りから羨まれる村となりました。

特に今年はコロナ対応を最優先に施策を展開され、今のところ舟橋村での感染者はゼロということで、まだまだ気は緩められませんが、村を預かる立場として安堵しておられることと思います。本当にご苦労さまでございました。

任期を終えられた後は、健康に十分留意され、今後の舟橋村を見守っていただきたいと思っております。金森村長に対しまして心より敬意と感謝を申し上げ、まだ任期中ではございますが、この場をお借りして引退に対する言葉とさせていただきます。

それでは、通告をしております地域学校協働活動（本部）運営について質問を行います。

先月27日、舟橋会館において「ふなはし村民大会」の事前打合せ会が行われております。それには私も出席しましたが、この趣旨に賛同された村内多くの関係団体の方々が出席しておられ、これが本来あるべき住民主体で行う事業であると思いましたが、何としてもこれを成功させなければならないと感じておりました。

事前打合せ会では、青少年育成村民会議会長である野村智浩さんの挨拶から始まり、ふなはし村民大会についての開催趣旨、経緯が説明され、大会当日の内容についての説明もございました。

このことについては6月議会の質問でも関連した質問を行っておりましたので、開催趣旨、経緯については十分に理解をしておりましたし、今後の活動や事業に対しても、この趣旨にありますように、ふるさとに愛着を持ち、礼儀正しく規範意識の高い子ども

たちを育てていくために、私たち大人には、地域ぐるみで学校を支え、子どもたちを健全に育てていかなければならない責任があると感じておりました。

ただ、その説明の中で、地域学校協働本部という聞き慣れない組織といますか、言葉といますか、それについて話しておられましたが、それはどのようなものなのか、その活動内容について説明を求めたいと思いますが、改めまして、ふなはし村民大会から地域学校協働活動、そして本部とはどのようなものなのか説明願いたいと思います。

以上、質問を終わります。

○議長（森 弘秋君） 教育長 早川誠一君。

○教育長（早川誠一君） おはようございます。

ただいまの7番前原議員さんからご質問がありました地域学校協働活動とその本部の運営についてお答えいたします。

初めに、お話にありました「ふなはし村民大会」についてご説明いたします。繰り返すにはなると思いますが、改めてご説明申し上げます。

以下、「村民大会」と申し上げますが、この大会は、地域ぐるみで学校を支え、本村の子どもたちの郷土愛や規範意識を一層高めることを目的に開催することとしております。これまでに村総合教育会議、実施主体となる青少年育成舟橋村民会議での協議を経て、当初は11月3日の村文化祭と併せて開催する予定でありましたが、コロナ禍において延期せざるを得ず、現在は来年2月28日に舟橋会館ホールで開催するため準備をしております。

去る11月27日には、その事前打合せ会を開催し、小中学校での様々な体験活動、例えば農業活動、それから自然保護活動、中学校での「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」の授業など、また登下校での安全見守り活動、そして地域での各種スポーツ行事や活動、バンドリーの活動、体育協会の行事、そして放課後授業、図書館、舟橋会館、公園での授業等です。そういった活動に、子どもたちに関わっていただいている個人の方や団体代表の方、約30名の皆さんに集まっていただきました。その際に、今ほど申し上げました大会の目的といますか、趣旨でもありますが、それとこれまでの経緯、そして当日運営について説明いたしました。

大会当日は約260名の参加を見込み、大会の趣旨説明、子どもたちや学校を支える団体の皆さんの紹介、そして児童生徒からの村民に対するお願い事、そして大会宣言文の読み上げ、最後には「ちっちゃな舟橋村」の歌の披露などを行う予定であります。

なお、議員の皆様にも参加のご依頼を申し上げますので、そのときはご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。

また、事前打合せ会では、村民への周知を工夫することや子どもの言葉で親しみやすいサブテーマを設けたらどうかとか、それからその後の方針を整理することなどをご意見いただきましたので、今後生かしてまいります。

次に、地域学校協働活動と来年度に設置する本部の運営についてご説明いたします。

「地域学校協働本部」とは、まだ聞き慣れない言葉かと思いますが、これは平成27年12月の中央教育審議会、よく中教審と申しますが、そこでの答申の頃に使われ始めた言葉でありまして、地域と学校が連携・協働して、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支え、地域を創生する活動というふうに説明しております。そして、その活動の推進拠点を地域学校協働本部と呼んでおります。

以下、「協働本部」と申し上げますが、つまり先ほど村民大会に打合せに集まっていたいただきました各種団体の皆さん、こういった皆さんがしておいでる活動そのものが地域学校協働活動でありますから、本村では、それらの活動を束ねていける協働本部の在り方について考えてまいりました。

そこで、来年度は、この協働本部を舟橋会館内に設け、地域の皆さんの協働活動と小中学校との連絡・調整役をする人材を配置する予定にしております。これは国庫補助事業もございまして、そういった事業も活用してまいります。そうすることで、地域の方との連絡を密にして協力しやすくなったり、学校が地域の方に頼みやすくなったりし、さらには学校側の負担軽減にもなることを期待しております。

令和3年度は、地域の皆様にこれまでの協働活動を継続いただきながら、まずこの協働本部としてのコーディネート機能が円滑に進むように環境を整えまして、令和4年度以降にさらに活動を充実してまいりたいと考えております。

いずれにいたしましても、今般の村民大会を契機として、地域ぐるみで学校を支え、本村の子どもたちの郷土愛や規範意識を一層高め、本村がこれまでに築き上げてきた教育村としての存在感を残しながら新たな仕組みを構築してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（森 弘秋君） 前原英石君。

○7番（前原英石君） 今ほどは、会議の目的やタイムスケジュール等について丁寧な説

明をいただき、ありがとうございました。

この事業は新規事業であると思います。舟橋村地域学校協働本部は今後、村の青少年育成に欠かせない組織となって、育ててもらいたく思うわけですが、それに対して本当に大変期待をしております。

そこで、その本部には、事務局にふさわしい人材といいますか、やっぱり住民とのつながり、橋渡しが重要な役割の仕事になると思いますが、そのような人材の確保をお願いするとともに、少なくとも組織として軌道に乗るまでは職員の配置を固定するなど、安定した運営を行っていく必要があると思います。

そのようなことに配慮いただきたいと思いますが、それについてどのような考えをお持ちかお聞きします。

○議長（森 弘秋君） 教育長 早川誠一君。

○教育長（早川誠一君） 今ほどの追加のご質問についてお答えいたします。

協働本部の事務局にふさわしい人材をとということでございました。こちらのほうでも、その人材によっては、この事業がうまくいくか、いかないかということで大変重要なポイントかと思っております。

ですので、地域の皆さんと、それから学校の実情をよく理解しておいでの方を今予定しております。その方に連絡調整役をしていただいて、円滑に進むようにと考えております。

それから、その後安定した運営ということでございますが、先ほどご説明しましたように、まず令和3年度は、軌道に乗るようということで考えておりました。令和4年度に、それに加えて新たな取組も入れていこうというふうに思います。そして、令和5年度のほうには順調に進んでいくようということで、基本的には、当初の事務局に当たる人員の配置ということは継続しながら、そして順調に進みましたら、また後任を上手に育てながらこの活動が末永く続けばよろしいかなと考えておりますので、そういったことで、こちらのほうも一生懸命頑張っていまいりますので、よろしく願いいたします。